



変わりゆく小名浜

交通ターミナル

(バスターミナル・タクシープール)

17

しおさいかわら版

発行所
小名浜まちづくり
市民会議
TEL: 52-1275
FAX: 52-1415
発行日
平成30年11月20日

「小名浜港背後地津波復興拠点整備事業」の1つとして高速バスとタクシーの乗降所、「交通ターミナル」が整備され、平成30年6月に供用を開始しました。

面積は約5,956㎡。タクシーに関してはそのエリアに回送された車両が活用、バスに関しては遠方への高速バス発着所との活用が進められています。高速バスは東京や仙台、福島、郡山といった主要都市に向けた路線が一日に平日は3便、土日休日は7便運行されています。

震災前には年間250万人が訪れた県内屈指の観光エリアのアクアマリンパークやこの6月に開業したイオンモールいわき小名浜に隣接されていることもあり、お越しになる観光客や地域住民の便利な交通手段としてその定着が期待されています。予てより小名浜地区には公共交通の集積の必要性が議論されており、この施設がその一助になることも期待されています。

▲11月12日迄試験走行したグリーンスローモビリティもバスターミナルを走行

汐風竹町フェスタ開催

汐風竹町通りが歩行者天国となりイベントが開催されます！

ポケットパーク1からポケットパーク4までの道のりが、それぞれ飲食ロード、競技ロード、インモーシヨロード、遊びロード、フリマロードとなり、美味しく楽しく買い物もできる散歩道になります。さらにポケットパーク4内ではス

テージを設けてミニコンサートを開催する予定です。

汐風竹通りが緊急避難通路であるという認知度を高めつつ、まちなかとの連携が深まることを目的としてこのイベントは開催されています。

12月2日(日)午前10時～午後4時まで開催です。気軽に遊びにきてください。

10月全体会議

小名浜まちづくり市民会議の10月全体会議が、まちづくりステーション小名浜にて11月1日に行われました。

公共交通と鉄道事情を交えながら、小名浜を含めた鉄道路線の運航実現に向けた可能性を話されました。

講師に、㈱カズレールウエイコンサルタントの代表取締役社長田中一弘氏を迎え、「小名浜での旅客鉄道運行の実現に向けて」と題して講演会を行いました。小名浜の鉄道の歴史を話し、近年の地方都市における鉄道の状況や公共交通の方向性を、富山市の事例や国の補助金の活用事例などを挙げながら話されました。また、泉駅と小名浜間の旅客化の可能性について、車両・運行事例・運営費などを考慮に入れながら、その可能性を説明されました。最後に、いわき市内の公



小名浜まちづくり市民会議会員の皆様へ 全体会議開催のお知らせ

11月29日午後6時30分より、まちづくりステーション小名浜3階において、11月全体会議を開催します。今月は当会副会長 川田政雄氏による「グランドデザインの再考」について開催いたします。会員の皆様はお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

また、全体会議は毎月第4木曜日、今後の予定は12月は休会、1月は24日を予定します。お繰り合わせの上、ご参加ください。

▶ ポケットパーク1 毎月開催される土曜朝市の様子

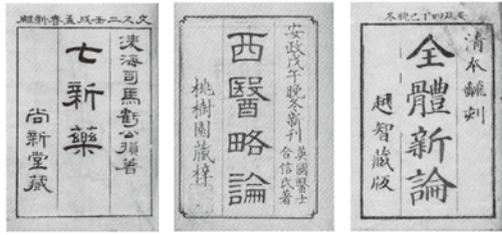


小名浜学事始め

『いわき戊辰戦争と小名浜』Ⅲ

新政府軍の奥羽出張病院は、1868年6月17日に平潟（茨城県北茨城市）に開設しました。いわきの戦場は平城の落城をもって一段落し、病院は7月22日に移動、同月27日には平長橋町の性源寺に置かれまし
た。途中、小名浜に23日から26日の4日間、同病院の医師・負傷者たちは立花見龍宅他十数軒の旅館に分宿しています。8月6日には「病院多忙の時に手伝いとして」小名浜の鈴木救意・小野良庵・新妻宗甫らが治

療協力の依頼をされました。病院の引揚げは10月25日、負傷者60名と医師12名、看病人52名、人足302名の合計426名が東京に向かいました。置き土産は「外科道具」と「医学書」でした。



▲奥羽出張病院で使用された医学書

第65回いわき花火大会フォトコンテスト

今年もいわき花火大会のフォトコンテストが開催され、その表彰式が10月7日いわき・ら・ら・ミュウで行われました。応募総数155作品から一時選考通過

した85作品が10月4日、10月19日の間、いわき・ら・ら・ミュウに展示され、今年のグランプリは江名在住の河崎富藏さん撮影「流彩」でした。



▲グランプリ「流彩」
特選は「アクアニハタメク」 大津 智子さん
入選は「今夜は踊ります！」 菅野 浩さん

浦ケ富公園清掃

10月20日、小名浜富ケ浦公園にて小名浜まちづくり市民会議が中心となり、市民総ぐるみ運動に呼応した清掃活動が行われました。約20名の会員が参加し草刈機や熊手を駆使して、除草活動を中心に公園をきれい



に蘇らせました。遊歩道は掃き清められ除草前とはその姿を大きく変えていました。秋晴れの中、参加者は汗をぬぐいながら活動にあたっていました。

グリーンスローモビリティ実証運行

国土交通省の地域交通実証調査事業として、最高速度20kmの電気自動車「グリーンスローモビリティ」が10月30日から14日間、小名浜の港湾エリアを走りま

はかなりのスペースで、域内を移動する交通手段が常設されれば、魅力はさらに高まると感じさせられる実証運行でした。

いわき・ら・ら・ミュウを出発し、アクアマリン、イオンモール北側の「七間道路」、そして旧小名浜魚市場付近まで。休日はさらに三崎公園まで走り、平日は1周25分、休日は39分で回りました。事業の目的は、来訪者の回遊性の向上や観光地としてのエリア価値を高めるといふことで、乗車された方は心地よい潮風に吹かれながら、港町の魅力を満喫していました。小名浜港エリアは歩くに



歴史委員会 ナイトツアー

10月27日、歴史と文化づくり委員会の小野委員長はじめ4名が、夜のまち歩き「小名浜ナイトミステリーツアー」を行いました。汐風竹通りでのシオカフェを出発点に、汐留区民会館公園、旧小名浜測候所を経て、昔民家の面影が残る裏道を通って海福稲荷神社に参拝、そして中坪方面に向かい夜のネオン街を散策。いわゆる飲み屋が少なくなり金星座通りも様変わりしていましたが、カラオケが流れ笑い声が溢れる夜の空気に、一同は変化の中でも頑張るお店の気概を感じたようでした。その後空き地が増えた小名川方面へと歩を進め、バーで一杯。いわき市も狭いもので、マスターや他のお客さんと共通の知人との話で盛り上がる一幕も。最後は竹町に戻り、ラーメン・餃子・ビールで締め。人情溢れ威勢のよい商売人達は感激的で、委員長から説明もあつた裏道の下水道やレンガ造りの建物は風情がありました。それらを生かせば若者が愛せるまちとして小名浜をアピールできるのではないのでしょうか。楽しいなかでも新たな知見が得られる有意義なまち歩きとなりました。

（Y・Y記）

小名浜まちづくり市民会議とは… 小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

随時FBに活動状況をアップしています。見つけたいらぜひ、聞いてください。

小名浜まちづくり市民会議では随時、会員募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんと一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか？

年会費 個人会員：3000円 企業会員：20,000円 団体会員：12,000円

お問い合わせ・お申し込みは：いわき市小名浜字本町 11-1（まちづくりステーション小名浜）
TEL：52-1275 FAX：52-1415
http://www.onahama.jp/ E-mail：info@onahama.jp

